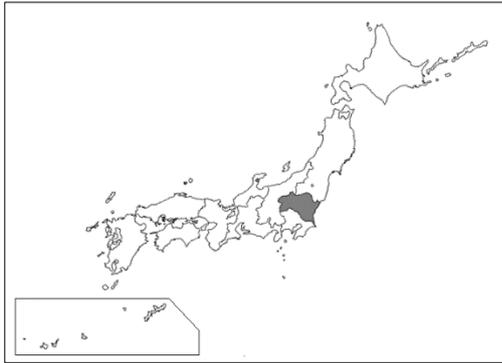


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

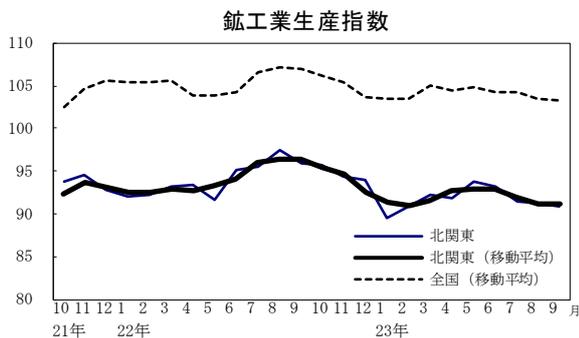
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年9月)	今回 (令和5年11月)	
景況判断	緩やかに回復している	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

7－9月期の鉱工業生産は、前期比1.8%減となった。月別にみると、7月は「電子デバイス、電気・情報通信」が減少したこと等により前月比1.8%減、8月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により同0.2%減、9月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により同0.4%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	▲0.6	▲0.3	▲1.4	▲1.1	0.3
輸送機械	18.3	8.7	▲2.7	▲2.0	0.1	3.9
汎・生産・業務用機械	17.1	4.1	▲3.6	▲2.0	▲2.2	▲5.5
食料品・たばこ	12.1	1.3	—	▲0.6	3.8	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	1.4	▲6.2	▲7.2	1.5	▲3.9
鉱工業	100	2.2	▲1.8	▲1.8	▲0.2	▲0.4

- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。北関東の最新月は速報値。
2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7－9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

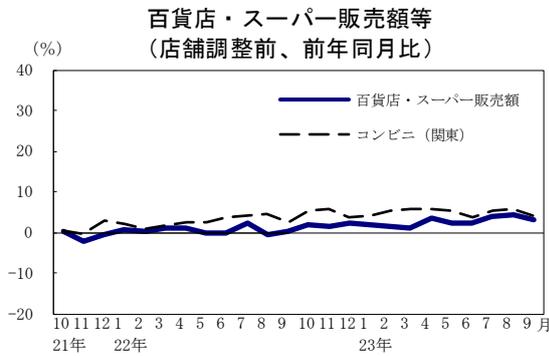
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

7－9月期は前期比 0.9%減となった。月別にみると、7月は前月比 1.1%減、8月は同 0.3%増、9月は同 0.8%減となった。

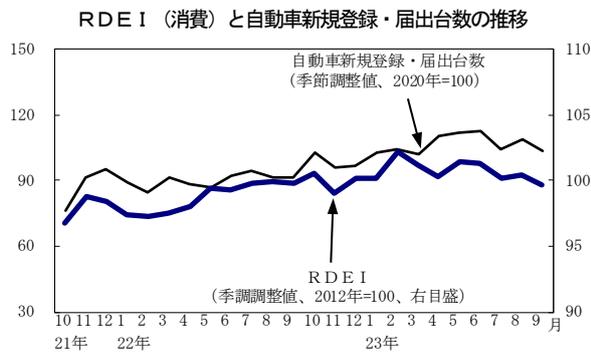
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7－9月期は前年同期比 3.9%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 4.2%増、8月は同 4.5%増、9月は同 3.0%増となった。



	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲0.9	▲1.1	0.3	▲0.8
百貨店・スーパー(*2)	3.9	4.2	4.5	3.0
コンビニ(*3)	5.2	5.5	6.0	4.1
乗用車(*4)	12.7	10.4	16.8	11.8
(季節調整値)(*4)	▲5.6	▲7.3	3.7	▲4.9

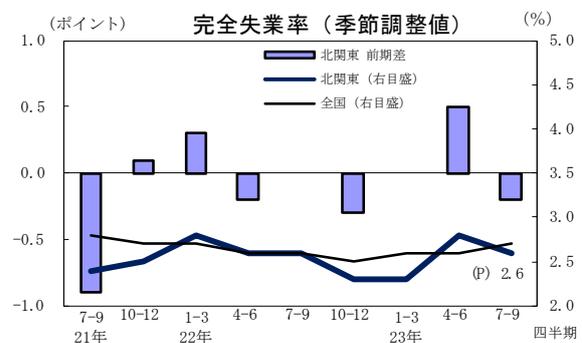
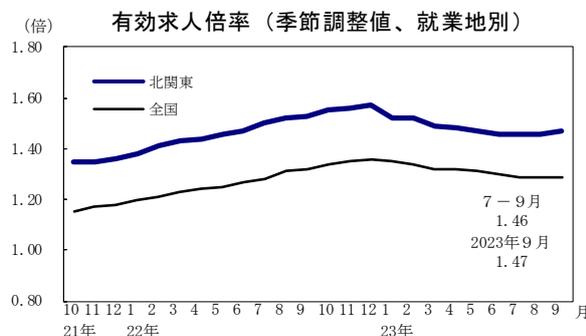
- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
 コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



- (備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。
 2. 7－9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・客単価が良くない。イベント等もあり客足は増えているのに、客単価が足を引っ張っている感じである（一般レストラン）。
		▲	・修繕案件が少ない。コロナ禍での修繕が相次いだためか、需要を先食いした感がある（その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕）。
		○	・今月は受注、登録いずれも増加している。受注は順調で受注残も発生し、増加している（乗用車販売店）。
	企業 動向 関連	□	・順調に稼働しているものの、人手不足が影響してくるのではないかと懸念している（窯業・土石製品製造業）。
		○	・取引先から値上げを認められている（金属製品製造業）。
		▲	・利益率の良かった清掃管理業務の取引が解消する等、業務が減少したため、売上、利益共に減少している（不動産業）。
雇用 関連	□	・新規求人数が前年同月比で減少と増加を繰り返している（職業安定所）。	
	▲	・求人がなく、派遣期間満了時に終了となる取引先もある（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			○：10～11月は、紅葉シーズンで例年書き入れ時となるが、今年はコロナ禍を感じさせない販売量となっている。新型コロナウイルス感染症発生前の3か月前の売上達成度と比べても、今月の方が良い。国内客だけでなく海外からの観光客も多く、3か月前に強くみられた買い控えも余りなく、人手不足による売上機会損失を補うほどの購入量となっている（一般小売店〔土産〕）。 ▲：野菜価格の高騰等の影響で、売上が鈍化している（スーパー）。
先行き	家計 動向 関連	□	・秋に入り気温も落ち着き、行楽シーズンで人が動き始めると活気が出る。一方、年末に向けた動きでは、物価高騰の影響が出ないかが懸念される（商店街）。
		▲	・人手不足の状況下で、最低賃金が大幅に引き上げられたことを契機に、更に募集人件費が上昇傾向となっている。既存社員の給料にも波及することとなり、人件費全体が押し上げられる。食材費や経費を含むコスト全般の上昇により、収支確保が難しい状況が当面続いていく（その他飲食〔給食・レストラン〕）。
	企業 動向 関連	□	・自動車業界は受注残を多く抱えており、高水準の稼働が続く見込みである。ただし、ロボット業界の一部では生産回復時期が不透明な状況が続く（一般機械器具製造業）。
		○	・取引先の部品調達の不安は、ほぼ解消されてきている。減産はないと思うが、輸出面での不安はある。受注量も戻りつつあり、良くなっている一方で、人材確保の面で不安がある。まだ先の見えない状況である（輸送用機械器具製造業）。
	雇用 関連	□	・景気動向が不透明であるため、今後、政府の経済対策がどのように行われるか次第で変化していく（学校〔専門学校〕）。
	その他の特徴 コメント		

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

